

武田 雅司 議員



(二問一答方式)

① 新年度当初予算案

② えひめいやしの南予博2016

③ 在宅での医療・介護の支援体制

④ アクティブ・ラーニングの取り組み

新年度当初予算案について

問 行政サービスのコストは、現行予算制度における支出額とイコールではない。減価償却や間接部門の人件費など、現在の予算制度のもとでは曖昧になっているコストをサービスごとに明確に

し、住民に開示し、説明することもある必要である。既に財政状況の公表はされているが、これらの点についてどのように考えているのか。

答 行政サービスを要した事業費のコストを把握することは、財政運営の効率化を図る上でも重要なことであると認識しているところだ。そのため、本市においても、平成28年度から固定資産台帳の整備と現行の単式簿記を補完する複式簿記の導入に向けて取り組むこととしているところです。

今回、国において示された地方公会計の統一的な基準に基づき、財務書類を整備することで、他市との比較や事業別、施設別のセグメント分析などが可能となり、効率的な財政運営が図れることになると考えています。国は平成28年度決算に係る財務書類を平成29年度までに公表することを求めているが、本市においても、そのスケジュールに沿った形で整備していくこととしています。

えひめいやしの南予博2016について

問 本年、南予全域と伊予市を加えた全10市町で、えひめいや

しの南予博が開催される。イベントのPR活動も大事だが、地域で頑張っておられる市民グループ、その他各種団体の方々に対してどのように協働参加いただくことを期待されているのか。

答 市民の参加協力については、昨年6月以降、市内の住民グループ等の皆様に呼びかけをさせていただき、みずから企画し実施する自主企画イベントなどで積極的に参画いただいているところです。

また、昨年11月からのまち歩きガイドの養成講座には、現在12名の市民の方に参加をいただいているところだ。今後本格的なイベント実施となりますと、さらに市民の皆様の御協力が必要となりますので、さらなる情報発信を始め、イベントへの参加を通してできるだけ多くの市民の皆様の御協力を得ていきたいと考えています。

在宅での医療・介護の支援体制について

問 最期を迎えたい場所として半数以上の方が自宅を挙げられているが、人口動態調査によると、病院を含む自宅以外で亡く

なった方の割合が87%で、自宅で亡くなった方の割合は12・9%にとどまっている。

在宅で医療、介護を受けることを希望される方が自宅で最期を迎えることができるような体制づくりを積極的に推進するつもりはないか。

答 在宅介護を支援するための介護事業所については、平成28年3月以降に通所介護が2事業所、平成29年4月以降に定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス事業所1施設が新たに開設される予定です。この定期巡回・随時対応型訪問介護看護は、24時間対応を前提として、医療機関と連携を図りながら要介護者を支援するサービスで、ケアプランをもとに、定期的に介護及び看護従事者が利用者の自宅を訪問してサービスを提供し、また必要に応じて随時訪問しサービスを提供するものです。このことから、自宅で最期を迎える「看取り」を希望される高齢者にとっては有効なサービスと考えており、今後もサービス提供事業者の公募を行っていきたいと考えています。